

デーブ大久保氏が心筋梗塞で 天国へ行く途中で見事に引き返して 生還した壮絶な体験談

2021.10.2 にアップした「コレステロールの誤解」も参照してください。

デーブ大久保氏は有名人なので皆さんは、よくご存じだと思いますが、念のために少しだけ紹介しておきます。『デーブ大久保』とは、丸い体型なので付いた愛称であり、本名は大久保 博元(おおくぼ ひろもと：1967.2.1～)です。彼は元プロ野球選手(捕手)でしたが、楽天の監督にもなり、さらに野球解説者、野球評論家、2000年からはプロゴルファーとしても活躍しています。私は、彼が巨人軍でキャッチャーをしていた時のことを今でも鮮明に覚えています。

そのデーブ大久保氏が、今年(2021年)の8月に心筋梗塞で倒れて、生死の境をさまよった時の様子を自身で克明に公表しており、我々の今後に大いに参考になり、命拾いにも役立ちますので、その内容を紹介します。一般に公表してくれたデーブ大久保氏に深く感謝します。

デーブ大久保氏の父親は、54歳の時に心筋梗塞で亡くなったそうですが、今回デーブ大久保氏が心筋梗塞になったのも、偶然にも同じ54歳でした。これは何かの因縁でしょうか。さらに、はっきりとは書いてありませんが、以前に弟も同じ病気になったような表現があり、その助言で病院へ早く行って助かったようです。デーブ大久保氏は、一人で東京に住んでいるそうです。なので倒れた時に、同居者がいない人は大変です。

デーブ大久保氏は、今年の10月13日にツイッターを更新し、8月に心筋梗塞で倒れて、生死をさまよったことを克明に書いています。そしてその色々な情報の要約は下記のように、とても参考になります。

突然、みぞおちにモノがひっかかったような強烈な痛みを感じたのは、8月29日の深夜です。不快感や苦しさは、どんどん増していく。胃の中の物を出したほうがいいと感じ、ベッドから這うようにしてトイレに行き、

口の中に指を入れたのですが吐けません。冷や汗が止まらず、『もう殺してくれ』と思うような苦しさです。耳鳴りもひどい。いつの間にかトイレの前の廊下で転倒し、意識が遠のいていきます。生まれて初めて死を感じました。まさか54歳で人生が終わるとは……。起き上がれない状態が、1時間ほど続いたと思われるが、気がつくと、全身が汗だくだった。パジャマはビッシヨリと濡れ、フローリングには汗が水たまりのように広がっている。身体を拭こうと、なんとかしてやっと立ち上がり、風呂場に向かおうとしたが、足がもつれて再び転倒した。都内で一人暮らしをしているので、誰か助けを呼ばなければ本当に危ないと思い、近くに住んでいる同郷の後輩に電話したところ、深夜にもかかわらず後輩は電話に出て、すぐに来てくれました。後輩が到着したころには、状態はいくぶん改善していた。意識も戻り、ゆっくりとなら話もできました。後輩に意識を失ったこと、転倒したことなどを話すと、『パニック障害じゃないです

か』と言われました。症状が当てはまったんです。『それなら死ぬ心配はない』と気持ち少し和らぎ、そのまま休みました。←これは素人判断の大きな間違いであり、下手をすると手遅れになって死んでいた可能性があります。心筋梗塞なら一刻を争います。そんな悠長なことを言っていてはダメです！すぐに救急車を呼ばないといけません。

倒れた翌日はゴルフの予定が入っていて、体調は良くなかったため、キャンセルも考えたが、日ごろ世話になっている大切な人たちとのラウンド。土壇場でやめる訳にはいかない。胸の苦しさを感じつつ、ゴルフ場へ向かった。←自分の命よりも重要なゴルフなんてあるのか。一緒に回る人たちには、『具合が悪いので申し訳ないですがハーフで上がります』と伝えました。それでも後悔しました。終わるとどっと疲れが出て、クタクタ……。家に戻ると倒れるようにベッドに入り、翌朝までずっと寝ていました。目覚めてしばらくしてから、弟に電話しました。同じように

胸の痛みを感じ、手術をした経験があるからだ。怒られましたよ。『それはパニック障害じゃない。すぐに病院で診てもらいと危ないよ』と。←
弟さんの言うことは正しい。経験者語るです。

それで親しい医師に連絡し、翌日、病院へ行くことになりました。当日の朝にも視野が狭まり、胸は激しい苦しみに襲われる。身の危険を感じクリニックを訪れると、心電図検査を受けた。だが、看護師たちの様子がおかしい。何度かやり直し、検査結果に驚いている。データを見た医師が、慌てた様子で言った。『すぐに大きな病院へ行ってください』と。

そこで順天堂病院の急患へ行きました。血液や酸素濃度などを調べると、最初は2人で対応していた医師が7～8人に増えた。慌ただしく動き回り、ただ事ではありません。ベッドに寝かされると、こう告げられました。『心筋梗塞の疑いがあります。しばらくベッドから下りられません。トイレもここで済ませてください』。『入院するんですか。なにも準備して

いないので……』と訴えると、『そんなこと言っている場合じゃないんです。いつ亡くなってもおかしくない状態なんですよ！』とクギを刺されました。心臓の危険度を示す数値は、正常値上限の6～7倍だったとか。急きょ、翌日に手術を受けることが決まりました。血圧を測ると210だった。熱は38度以上。ICU(集中治療室)に連れていかれ、そこで一夜を明かした。

翌朝は6時に起床。手術は9時から始まる予定だったが、熱が下がらず新型コロナウイルス感染の疑いがあったため、11時過ぎにズレこんだ。PCR検査の結果は陰性だった。手術室に入る前、医師からは『検査結果は、尋常でない悪い数値です。手術をしてしっかり対応しないと死に直結します』と、キツパリと言われました。カテーテルを通す腕の部分を局部麻酔し、心臓を元気にする薬を投与。私は極度の緊張で、身動きができません。手術は1時間半ほどで終わりました。手術は無事

成功する。← 冠動脈の狭窄部位にステントを入れたと思われます。
幸い血管は、完全には閉塞しておらず縮んだ状態だった。薬を吞んで
安静にしていると、苦しさがなくなり術後の状態や、もろもろの検査数値
も安定。徐々に快方に向かい3日間の入院後、退院となった。術後1カ
月は、身体に負担がかかるため、ゴルフや飛行機への搭乗は禁止。
風呂には入れずシャワーで済ませ、激しい運動も控えるように言われ
ました。心筋梗塞の最大の原因は、ストレスだそうです。私もこの半年、
ある事がキッカケで強いストレスを感じていたんです。乱れていた生活
習慣も改善しました。一日のタバコの本数は50～60本でしたが、病気
になってからは1本も吸っていません。酒も毎晩、焼酎を中心に4合か
ら5合飲んでいましたが、今はビール1杯程度です。退院から2カ月が
たち、徐々に手術前の通常の生活に戻している。だが、完全に治った
わけではない。疲れやすく、息切れが起き、気力がわかない日もあると

いう。『ニトロベン(血管を拡張させる薬)は、常に携帯しています。医師からは、苦しいと感じたらすぐに服用するように言われているんです。父は今の私と同じ54歳の時に心筋梗塞で亡くなりました。天国から、救いの手をさしのべてくれたのかもしれません。意識を失い転倒した時、パニック障害だと決め込んでいなくて良かった。病院に行って手術を受けなければ、確実に命を落としていたでしょう。当時を振り返ると、冷や汗が出ます。』現役時代は、捕手として一球一球をおろそかにせずにミットで受け止めていた。今は健康でいることのありがたみを噛みしめ、一日一日を大切に過ごしている。

以上がデーブ大久保氏の心筋梗塞体験談の要点です。これは我々の今後の心筋梗塞の対応に非常に参考になります。明日は我が身と思って皆さん注意してください。今までに多数の人からの体験談を集めていますが、自覚症状がとても軽くても他界された人もいますし、上記

のデーブ大久保氏のように、とても強烈な耐えられないくらい強い自覚症状があり、その上にゴルフまでしても助かることがあるのです。冠動脈の狭窄の程度によるのでしょうか。ただし、今回の実例は楽観的過ぎる対応の悪い例だと思います。すぐに病院へ行かないと！この逆に自覚症状は、とても弱かったのに亡くなった人を知っています。

いずれにしろ、中高年で胸部に強弱を問わず、いつもと違う何らかの違和感があれば、一応心筋梗塞を疑ってみるべきです。違って、たとえば医者に『神経質すぎます。これは単なる大胸筋の筋肉痛で、心筋梗塞なんかじゃありませんので、これで死ぬことはありません。』と笑われても、心筋梗塞で死ぬより、はるかにましです。

上記のようなデーブ大久保氏の生々しい体験談を読んでの私の感想や意見は以下のようです：

まず一番強く思ったことは、心筋梗塞の家族歴があり、父親が今の彼

と同じ年齢で亡くなっており、しかも彼に心筋梗塞の症状が強く出ていて、七転八倒しているのに、心筋梗塞とは思わず、救急車も呼ばずに呑気にしていて、ゴルフまでしていたのが信じられません。とてもうらやましい性格です。私のような研究をしている者には全く考えられません。

読者の皆さんへ。心筋梗塞の家族歴があり、上記のような症状がある時は、すぐに救急車を呼んで大きな病院へ運んでもらいましょう。曜日や時間は無視して、とにかく大至急に。手遅れになると死にますから。救急隊員に聞いた話ですが、救急車を呼ぶ時に、家の近くへ来たら目立つので、サイレンを止めて来てくださいと言う人がよくいるらしいのですが、緊急車両が出動している時は、法律でサイレンを止めてはいけないのだそうですので、余計な希望を言わないようにしてください。

次に単身赴任や一人住まいの人は注意してください。大学生とかの若者の下宿での一人住まいは、心配いらないでしょうが。その実例とし

て、私の親しい友人もそうでしたが、単身赴任で家族と離れて都市のアパートに住んでいました。まじめな性格なのに、勤務先に何の連絡もなく出勤して来ないし、電話しても出ない。何かおかしいとのことで奥さんに電話して、そのアパートへ見に行ってもらいましたところ、亡くなっていたそうです。検視の結果、心筋梗塞だったそうです。とても親しく優秀な人でしたので、残念でなりません。後でこんなことを言っても仕方ありませんが、同居人がいたら、倒れてもすぐに見つけて救急車を呼び、大都会でしたので、大きな病院へ運べば助かったのではないかと思います。運命・宿命を感じます。それに比べると、デーブ大久保氏は、本当にラッキーでした。人の命は、いつどうなるか予測できませんねー。

『三途の川』を渡るか渡らないかは、科学だけでは説明できない面があります。例えば知人ですが、道路が渋滞していて空港へ着くのが遅れて、予定していた飛行機に乗れず、とても悔しかった。しかし、『万事

塞翁が馬』で、なんとなんと、その搭乗予定だった飛行機が墜落し、ほとんど全員が亡くなったのです。この場合の生死は単なる偶然か、それとも何か特別の未知のことがあるか。私の研究領域の『生命科学』では、どうにも説明できません。真相は神のみぞ知るでしょうか。

長く生きていると、色々な不思議なことに遭遇し、訳が分からないことが多いのですが、各人の人生の全てのことは完全にプログラミングされていて、そのプログラムに従って活動しているだけであり、たとえば、AかBかどちらにするか、迷い抜いた末に自分でBに決めたと思っ
ても、最初からそうするようにプログラムされていたのです。この説に従うならば、人生なんて気楽なもので、大学入試でも病気でも寿命でも、何事もなるようにしかありませんので、何が起ころうともくよくよすることなく、悩むことなく、自分のプログラムがENDになるまで気楽に呑気に生きましょ
うというのが『人生プログラム説』なのです。植木等の歌のように。これと『随縁』が人生には重要です。My HPに随縁の解説があります。

デーブ大久保様

最後になりましたが、心筋梗塞で天国行きの地獄から脱出して見事に生還されました。本当におめでとうございます。良かったです。強運の持ち主ですねー。それにしても大変な七転八倒によく耐え抜かれました。さすが、忍耐力抜群の偉大なスポーツ選手ですが、我慢のし過ぎです。危なかったですよ。

『一度死にかけた人は、長生きする。』と言われていたので、きっと長生きしますよ、デーブ様は。とにかく死ななくて良かったです。

デーブ^{しん}神様

貴殿は、

今回生まれ代わって化身されました。

今後はボールの代わりに、

心筋梗塞の病魔をキャッチして、

どうか全国の皆様をお助けください。

終り